| 会 蓋 名 | | |
|---|--------|--------------------------------------|
| 会 場 200Mによる WEB 開催 教育、医療、編社の連携:地域で支える家族支援 - 各機関より現状報告と課題について 子どもの心か診療を専門とする医師、小児科医、行政及び教育関係者等による ネットワークを構築することにより、早期に支援の必要なかぞとも及び保護者を 関係機関につなげる仕組みを作り、もって子どもの心の問題について関係者が 適切な支援ができるようにすること 21名 うち県担当者1名、オブザーバー1名、事務局4名 【出席者所属(職種】】(敬称略・50 音順) 振野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センターMSW 石む 芽依 南部保健所保健下防嫌他担当技師 板合 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 月上 弘江 李手市立長倉小学校校長 大合 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 男上 弘正 第一十五十五十二十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十五十 | 会 議 名 | 令和6年度子どもの心の地域子育て支援事業ネットワーク会議 |
| 教育、区療、福祉の連携:地域で支える家族支援 各機関より現状報告と課題について一子どもの心の診療を専門とする医師、小児科医、行政及び教育関係者等によるネットワークを構築することにより、早期に支援の必要な子ども及び保護者を関係機関につなげる仕組みを作り、もって子どもの心の問題について関係者が適切な支援ができるようにすること 21名 うち県担当者1名、オブザーバー1名、事務局4名 【出席者所属(職種)】(数称略・50 音順) 飯野 楓 獨協区科大学埼玉区療センター総合患者支援センターMSW 石北 芽依 商部保健所保健于防推進担当技師板倉 伸夫 据名市妻沼小学校校長 井上 強 獨協区科大学埼玉区療センター子どものこころ診療センター医師井上 弘江 幸事市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協区科大学埼玉区療センター子どものこころ診療センター医師 東原 梨炒 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 送谷中教育センター医師 領水 宗章 越谷児童和談所担当課長 作田 売 獨協区科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 衛子 光空 線路医科大学海医療センター子どものこころ診療センター医師 銀本 保証 越谷市教育センター 特別支援教育担当 服部 経一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 屋野 宗啓 さいたま子どものこころクリニック医師 「県担当者「所属」】 小川 凌 埼玉氏科大学病院 神経精神科・心疾内科埼玉医科大学病院 神経精神科・心疾内科埼玉医科大学のかごえクリニック 医師 「県担当者「所属」】(敬称略) 田中 拓朗 放戦後デイサービス DEKITA 「事務局」 本高野 美由規、木村 収束、齋藤 惠美子、星島 由香・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課)・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等)・計識・次回の検討課題について 木日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならなできたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならない。 | 開催日時 | 令和7年1月30日(木)18:00-20:00 |
| - 各機関より現状報告と課題について 子どもの心の診療を専門とする医師、小児科医、行政及び教育関係者等による ネットワークを構築することにより、早期に支援の必要な子ども及び保護者を 関係機関につなげる仕組みを作り、もって子どもの心の問題について関係者が 適切な支援ができるようにすること 21名 うち県担当省1名、オブザーバー1名、事務局4名 【出席者所属(機種)】(数称略・50 音順) 飯野 親 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センターMSW 石北 芽依 南部保健所保健予防権連担当技師 板倉 仲夫 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 地江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松穴第二小学校養護教諭 三校 将史 総谷児童相談所担当課長 作田 亮 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 領永 崇寛 総谷市教育センター 医師 須永 崇寛 総谷市教育センター 医師 須永 崇寛 総谷市教育センター 地部 建野 崇啓 さいたま子どものこころりニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学がわごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉医科大学市かごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉医科大学市かごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉民科大学市かごえクリニック 医師 【東祖当者(所属)】 小川 凌 埼玉民科大学市かごえクリニック 医師 【東田当春 (所属)】 (戦称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 恵美子、星島 由香 ・ 接塚 (埼玉県保健区療部健康長寿課主事 【オブザーバー (所属)】 (戦称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 恵美子、星島 由香 ・ 接塚 (埼玉県保健区療部健康長寿課) ・ 家族支援のあり方 (首報提供、プレゼンテーション等) ・ 計議 ・ 次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | 会 場 | ZOOM による WEB 開催 |
| 日 的 日 的 日 的 日 的 日 的 日 的 日 的 日 的 日 的 日 的 | 議題 | 教育、医療、福祉の連携:地域で支える家族支援 |
| 日 的 ネットワークを構築することにより、早期に支援の必要な子ども及び保護者を関係機関につなげる仕組みを作り、もって子どもの心の問題について関係者が適切な支援ができるようにすること 21名 うち県担当者1名、オブザーバー1名、事務局4名 【出席者所属(職種】(敬称略・50 音順) 飯野 楓 獨協医科大学衛玉医療センター総合患者支援センターMSW 南部保健所保健予防推進担当技師 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 男上 建 獨協医科大学衛玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立良含小学校校長 「 | | -各機関より現状報告と課題について- |
| 関係機関につなげる仕組みを作り、もって子どもの心の問題について関係者が適切な支援ができるようにすること 21名 うち県担当者1名、オブザーバー1名、事務局4名 【出席者所属(職種)】(敬称略・50 音順) 飯野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センターMSW 石北 芽依 南部保健所保健予防推進担当技師 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 光小町 立を伏第二小学校養護教諭 运校 将史 越谷児童相談所担当課長 一第一 郷島医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 発売 総合事教育センター 医師 銀路 純一 星英学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学内記 20月 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉県保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、早島 由香・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課)・ 家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等)・ 討議 次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 子どもの心の診療を専門とする医師、小児科医、行政及び教育関係者等による |
| 関係機関につなげる仕組みを作り、もって子どもの心の問題について関係者が適切な支援ができるようにすること 21名 うち県担当者1名、オブザーバー1名、事務局4名 【出席者所属(職種】】(敬称略・50 音順) 飯野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター総合患者支援センターMSW 有部保健所保健予防推進担当技師 板倉 伸夫 照公司 幸手市立長倉小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 「カム」 「大谷」 東京 型 社会の定量和談所担当課長 作田 売 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 銀小 学校養護教諭 超谷児童相談所担当課長 作田 売 獨協医科大学埼玉医療センターと師 第本 一 星、 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 一 | 目 的 | ネットワークを構築することにより、早期に支援の必要な子ども及び保護者を |
| 21.名 うち県担当者 1名、オブザーバー1名、事務局 4名 【出席者所属(職種)】(敬称略・50 音順) 飯野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センターMSW 石北 芽依 南部保健所保健予防推進担当技師 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 第木 郁子 光の家療育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター時別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学かかごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課)・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進め ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 関係機関につなげる仕組みを作り、もって子どもの心の問題について関係者が |
| (出席者所属(職種)](敬称略・50 音順) 飯野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター総合患者支援センターMSW 石北 芽依 南部保健所保健予防推進担当技師 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 須永 崇寛 越谷市教育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター 世郎 銀 総一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック 医師 仏原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学市院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課)・家族支援のあり方(情報提供、ブレゼンテーション等)・討議・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進め ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子 どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 適切な支援ができるようにすること |
| 販野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センターMSW 石北 芽依 南部保健所保健予防推進担当技師 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童和談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 祭木 郁子 光の家療育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教論 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課)・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等)・討議・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 21 名 うち県担当者 1 名、オブザーバー1 名、事務局 4 名 |
| 石北 芽依 南部保健所保健予防推進担当技師 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 完一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター 医師 風部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学病の神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | 出席者 | 【出席者所属 (職種)】(敬称略・50 音順) |
| 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属】】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属】】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 飯野 楓 獨協医科大学埼玉医療センター 総合患者支援センターMSW |
| #上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 #上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教論 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 領永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 星美学園短期大学 幼児保育学科教論 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 石北 芽依 南部保健所保健予防推進担当技師 |
| #上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 領永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 ハ川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】 (敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 恵美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 板倉 伸夫 熊谷市妻沼小学校校長 |
| 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 融部 基野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 [県担当者 (所属)] 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 [オブザーバー (所属)] (敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA [事務局] 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課)・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等)・討議・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 井上 建 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 |
| 要原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー (所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等) ・計議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進め ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子 どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 井上 弘江 幸手市立長倉小学校校長 |
| 田 席 者 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 須永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教論 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進め ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子 どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 大谷 良子 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 |
| 田 席 者 | | 栗原 梨沙 松伏町立松伏第二小学校養護教諭 |
| 出 席 者 | | 三枝 将史 越谷児童相談所担当課長 |
| 出席者 領永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー (所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 作田 亮一 獨協医科大学埼玉医療センター子どものこころ診療センター医師 |
| 類永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー (所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 鈴木 郁子 光の家療育センター 医師 |
| 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進め ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子 どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 須永 崇寛 越谷市教育センター特別支援教育担当 |
| 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者 (所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー (所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進め ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子 どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 服部 純一 星美学園短期大学 幼児保育学科教諭 |
| 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 星野 崇啓 さいたま子どものこころクリニック医師 |
| 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 松原 聡子 発達障害総合支援センター担当課長 |
| 【県担当者(所属)】 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー(所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 横山 富士男 埼玉医科大学病院 神経精神科・心療内科 |
| 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 【オブザーバー (所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 埼玉医科大学かわごえクリニック 医師 |
| 【オブザーバー (所属)】(敬称略) 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 【県担当者(所属)】 |
| 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 小川 凌 埼玉県健康保健医療部健康長寿課主事 |
| 【事務局】 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 【オブザーバー (所属)】(敬称略) |
| 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 ・挨拶 (埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 田中 拓朗 放課後デイサービス DEKITA |
| 内 容 ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 【事務局】 |
| 内 容 ・家族支援のあり方(情報提供、プレゼンテーション等) ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 北高野 美由規、木村 収実、齋藤 惠美子、星島 由香 |
| ・ 計議 ・ 次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | 内 容 | ・挨拶(埼玉県保健医療部健康長寿課) |
| ・討議 ・次回の検討課題について 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | ・家族支援のあり方 (情報提供、プレゼンテーション等) |
| 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進めていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | ・討議 |
| 総 括 ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子 どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | ・次回の検討課題について |
| 総 括 どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | | 本日出た課題を各所属へ持ち帰り、子どものために手を取り合って支援を進め |
| どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな | 644 1- | ていきたい。教育、医療、福祉の分野で情報共有することに大変意義がある。子 |
| い。多職種が協力し合える環境づくりも必須である。 | 総 | どもたちが生活しやすい環境づくりを各支援者が考えていかなければならな |
| | | い。多職種が協力し合える環境づくりも必須である。 |